第５章 本科卒業生に対する社会的評価

５．１ はじめに

本章では，企業に対するアンケート結果から「本科卒業生に対する社会的評価」に関する考察を行った。

アンケートは，626 社の県内企業に送付し，その内， 165 社(26.4%)から回答が得られた。回答のあった企業の業種は図 5-1 の通りである。また、回答のあった企業の採用実績は「本校本科卒業生(42%)」,「他高専本科卒業生(44%)」であった。(【企業質問 1-1】【企業質問 1-3】)

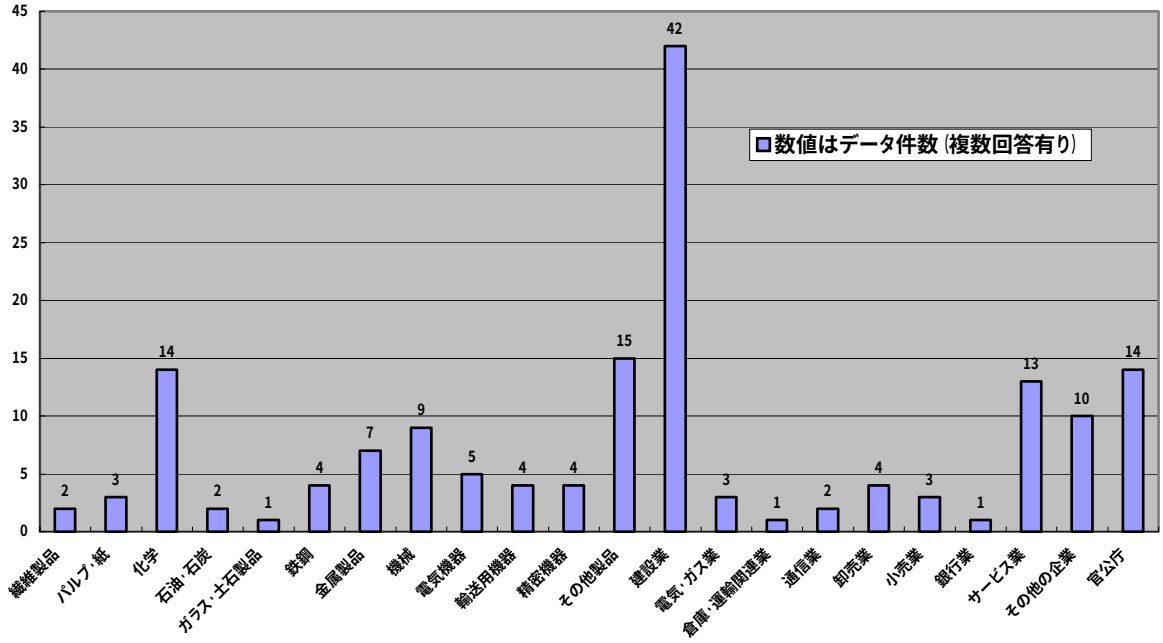

図 5-1 アンケート回答企業の業種別企業数

５．２ 本科卒業生に対する社会的評価

（１）勤務評価について【企業質問 2-1】

徳山高専本科卒業生の勤務成績を「非常に満足」または「満足」と答えた企業は 62% あり，３分の２の企業は高く評価している。一方で，「非常に不満」と答えた企業が１割近くあり分析が必要である。

（２）高専制度について

【企業質問 3】

「本校の複合教育」についての評価では，本校卒業生を採用した 82% の企業が適切と評価しており，有効生が認められている。

【企業質問 4-1】

「本校の教育目標」に見合う実力がついているかを問う質問を，本校卒業生を採用した企業にした。６項目中，５項目については４段階の３に評価が集中した。５項目については十分と認められたと言える。

残る１項目は「国際理解を深め, 技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う」という項目である。ほぼ，３分の１が「評価２」，３分の２が「評価３」で，他の項目では非常に少なかった「評価２」が多い。しかし，(企)質問 4-2 では同じ項目の重要性が低いと判断されており，企業と学校の間で認識に相違があるように感じる。

【企業質問 4-2】
「本校の教育目標６項目の中で特に重要と思われる項目」を問う質問を全ての企業にした。最も少なかったのは,「国際理解を深め，技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う(14%)」という項目である。(企)質問 4-1 で「不満足」の多かった項目でもある。

（３）大学生との比較について【企業質問 6-1】
高専本科卒業生全般について「大学生と比較した場合すぐれている点を選ぶ」質問で回答の多かった項目は,「誠実さ(58%)」,「専門知識(46%)」,「協調性(40%)」,「行動力(36%)」,「情報処理技術(28%)」であった。
若年から実践的な専門教育を受け, 20 歳で社会に出る高専生の特徴が良く現れた結果と考えられる。すぐれている点として「語学力(0%)」をあげた企業は全く無く，残念ながら予想通りの結果である。

（４）英語について
【企業質問 5-1】
高専本科卒業生全般について「入社時点の英語能力を評価する」質問では,「非常に不満」,「不満」を合わせると 27% になる。３分の１近い企業が英語力の不足を感じつつ，本科卒業生を採用していることになる。
【企業質問 8-1】
一方，採用時に TOEIC スコアを考慮する企業は 14%しかない。また，(企)質問 5-1 と同じ内容を専攻科卒業生について聞いた質問((企)質問 5-2)と比較すると，本科卒業生の英語力に対する「非常に不満」の回答が明らかに少ない。専攻科卒業生の方が劣るとは考え難く，不満が少ないのは，本科卒業生の就職時の英語力が，もともと，期待されていないとも受け取ることができる。

（５）今後の採用予定について
【企業質問 10-1】
高専本科卒業生全般について「今後の採用」を質問した。「採用したい(37%)」,「現時点では分からない(61%)」であった。
【企業質問 10-3】
「採用したい場合の職種」については,「施工管理(34%)」,「設計(29%)」,「生産管理(26%)」「システムエンジニア(23%)」,「研究開発(21%)」の順であった。

５．３ 本章のまとめ

企業に対するアンケート結果から,「本科卒業生に対する社会的評価」に関する考察を行った。その結果,「本科卒業生は，多くの企業で高い評価を受けているが１割弱は強い不満を持たれている」こと,「本校の制度・教育目標については概ね適当であり，卒業生もそれに見合う実力が付いていると評価されているが，国際理解の項目だけ企業と学校の認識にずれがある」こと,「本科卒業生は，誠実で専門知識に優れると評価されている」こと,「英語力については多くの企業で不満をもたれている」ことが明らかになった。

その他
・推奨資格，情報処理技術について：（【企業質問 7】【企業質問 9-1】【企業質問 9-2】）
本科，専攻科の区別をしないでアンケートしているので４章にまとめる。
・ インターンシップについて：(【企業質問 11】)
専攻科のみについての質問なので省略

（担当：重村）